



現在、約70の海外稲門会が世界各地で活動しています。
海外に滞在する際は、現地の稲門会を検索して参加してみましょう。
※一部、活動休止中の稲門会もありますことを、ご了承ください。

シンガポール稲門会について

シンガポール稲門会は、今年で設立42年を迎えます。シンガポールの発展とともに、シンガポール稲門会の会員数も増え、年代、卒業学部・修了した研究科、活躍している分野も多種多様で、早稲田大学らしさを感じることが出来ます。会の活動も活発で、毎月第2火曜日に行われる定例会には毎回30人前後が参加し、さまざまな年代の校友(時には現役生も)が参加し、「馬場飲み」さながらの盛り上がりです。このほかにも、懇親会、ゴルフなどの早慶イベント、パーベキュー、クリスマスパーティー、日本墓地清掃、ウォークラリー、ポーリング大会、ゴルフ大会などを行っています。シンガポールにお越しの際は、ぜひお気軽にご参加ください。

高橋俊介(2002年法学)



ご家族での参加も多いポーリング大会

会長メッセージ

に在留邦人数は増えて、会員数も増加傾向が続いています。ここ数年の大きな変化は若い世代と女性会員の増加でしょう。国際教養学部は例に出すまでもなく、その他、全学部から輩出されるしなやかさとたくましさ兼ね備えた早稲田の女性陣が日本の国際化に一役買っていることは想像にたやすいことです。

発展を続けるシンガポールにおいて、若い力をさらに飛躍させ、またわれわれ一人一人が多様性の最先端で日々生き抜いている強みを生かして、シンガポールの皆さんとともにこれからも成長していく稲門会でありたいと思っています。

般若正之(1983年理工)

会員からのメッセージ

大学で能楽サークル「観世会」に所属していた私は、海外で日本文化を広める活動がしたいと思い、日本好きが多く治安が良い国を探し、シンガポールを選びました。稲門会のつながりから、会社立ち上げのパフォーマンスで能を披露したり、着物の着付けを教えたりと、シンガポール稲門会のおかげで日本人でもなかなかできない生活を送っています。他国に比べ女性会員が多く、女性ならではの悩みを相談でき、女子会を企画できるのも魅力の一つです。

大淵未波(2007年文学)

新しい出会いにわくわくしながらシンガポール稲門会に参加させていただいて以来、稲門会の皆さまには大変お世話になっています。最大の魅力は普段話せないような大先輩と「早稲田卒」という共通点だけでお話ができること。世界各国を飛び回った貴重なお話を伺える機会があることに感謝しています。昨年末には卒業した後の後輩も参加し、いい刺激になりました。この出会いに感謝しながら、今後もシンガポール稲門会の一員として会を盛り上げられるよう、頑張ります。

小野彰紗(2013年国際教養)

シンガポール稲門会は、結社の規制があったシンガポール共和国において、当局への届け出や校友確認の難題を乗り越え、1976年12月中旬、アポロホテルにて第1回稲門会パーティー兼発足式を開催し、創設されました。さらにそれから遅れること5年半、82年7月7日に日本支部も産声を上げています。

私がシンガポール稲門会に初参加したのは83年12月のクリスマスパーティーでした。シャングリラホテルのボールルームに一堂に会した諸先輩方、ご家族の皆さまは130人を超えていたと記憶しています。

あれから30数年、シンガポールの成長とともに

この常夏の地では年間を通して各種スポーツイベントも盛ん。中でもゴルフは、シンガポール島内だけでなく、近郊のインドネシアの島々、マレーシアのジョホールバルに渡っての日帰りプレー、コンペも人気です。稲門会でも、開催160回を超える伝統ある早稲田カップに加え、周辺国の稲門会コンペにも参加。また、全日本大学対抗、東京六大学対抗、早慶戦など、年10回以上のコンペに参加し、校友、他校と親交を深めています。

飯高 浩(1986年商学)

シンガポール稲門会は会員数457人(2017年12月現在)、われらが永遠のライバル慶應の三田会は会員数483人で、在星邦人卒業大学として一大勢力を誇ります。ゴルフ定期戦(1部/2部)からソフトボール大会、テニス大会、果ては早慶対抗歌合戦まで、両校で幅広く交流をしています。早慶合同懇親会は100人を超える参加者を集め、大学の垣根、世代、公私を超えてシンガポールでの両校の絆を深めています。

伊藤弘記(1992年教育)

第8回女子会



シンガポールの魅力

(上)独立記念日(8月9日)のマリーナエリア
(下)川に臨む素敵なレストラン街、ポートキーエリア



シンガポールは北緯1度に位置する島国で、東京23区ほどの面積しかありません。しかし、東南アジアのビジネスハブとして成長著しく、近隣諸国へのアクセスも非常に良いことから、さまざまな企業が太平洋地域の拠点を置いています。「日本の次に安全な国」といわれており、治安も安定しています。また多民族国家で、街では英語・中国語・マレー語・タミル語などが飛び交います。観光産業にも力が入れられていて、F1誘致・カジノ・Marina Bay Sands・Gardens by the Bayなど、続々と新しい見どころや観光スポットがつくられています。

シンガポリアンが使う英語はSinglish(シングリッシュ)と呼ばれ、独特です。「Ok, lah.(OKよ)」と語尾に中国語の「了」を付けたり、文法を無視して「You go where?(どこに行くの?)」と言ったりします。

言葉の訛り(?)に寛容なので、英語はそんなに得意ではないけれど海外でチャレンジしてみたい方、シンガポールがRecommendation, lah!

大淵未波(2007年文学)